

標高わずか531メートルの札幌市近郊の藻岩山。登ってみたら、かなりきつい。自分より年上の女性が「お先に～」とホイホイ抜いて行く。身長164cmに対し体重85kg超、血圧は200近くまで上がり、不整脈まで出る不健康な体の持ち主は、65歳当時の三浦雄一郎さんだ。

幼少の頃より病弱で、小学生時代には結核をわずらい、ろくに登校出来なかった時もあったほどの脆弱な少年が、その後世界的プロスキーヤーへと成長。さらに山頂からの直滑降も始め、めきめきと力をつけた彼は、最終的に54歳で南アメリカ大陸最高峰アコンカグアからの滑降を成功させたことにより、世界七大陸最高峰全峰からの滑降を成功させた。中でも、1970年5月のエベレストのサウスコル8000m地点からの滑降の挑戦にかかる費用は当時3億円を要したが、本田宗一郎、松下幸之助など財界の大物に直接交渉し寄付金を集めたことでも有名だ。

が、全て過去の栄光になってしまった。「よく今まで心筋梗塞にならなかった」と医師に言われ、死の恐怖を感じた彼は、「病気を治すだけでなく、5年後のエベレストを目指して鍛えなおす！」と改心。骨折による歩行困難や、2度にわたる心臓病手術の試練を乗り越え、70歳、75歳とエベレスト登頂を重ねて来た彼は、とうとう史上最高齢の80歳での登頂に成功したのだ。「世界最強の登山チームが僕をここまで担ぎ上げてくれた！」と、山頂で叫ぶ彼を見て、

「あなたが年をとっても、あなたが白髪になっても、私は背負う。私はそうして来たのだ。」

なお、私は運ぼう。私は背負って、救い出そう。」イザヤ書46章4節

という、聖書にある神から我々への優しいメッセージを思い出した。苦しい日々を歩む我々一人ひとりを背負って、山頂まで導いて下さる神を信頼し、それぞれの人生の山を踏破しよう。

2013-6-9

